

香港の社会的企業サミットと ICSEA 会議について

栗本 昭 (法政大学・連帯社会インスティテュート)

1. EMES のプロジェクトとしての ICSEA と ICSEM

(1) ICSEA (International Conference on Social Enterprise in Asia)

目的：EMES の東アジア研究ネットワークの形成

主催者：ホスト国の実行委員会

経過：

Informal meeting at a joint EMES-ISTR Conference in Barcelona in 2008

第 1 回 (2010) 台北 Prof. KUAN, Yu-Yuan, 国立中正大学

第 2 回 (2012) 天津

第 3 回 (2014) 原州 CHUNG, Moo Kwon, 延世大学

第 4 回 (2016) 香港 CHAN, Kam Tong, 香港ポリテクニク大学

第 5 回 (2018) 東京？

(2) ICSEM (International Comparative Social Enterprise Models)

目的：各国の社会的企業モデルの析出と各リージョンと世界レベルにおける比較分析

コーディネーター：Jacques Defourny, Marthe Nyssens

参加者：50 ヶ国 220 名

経過：

Launched just after the 4th EMES Conference at Liege on July 5, 2013

ICSEM General Meetings in Helsinki in 2015, Stockholm in 2016

ICSEM Regional Symposiums in Wonju and Ardenne in 2014, Santiago in 2015, Tirana and Paris in 2016

第 1 フェーズ：各国の社会的企業概念、文脈、モデルについての論文 (2013~2015)

→オンライン WP として発行 (22 ヶ国 34 号)

- Kurimoto, A. (2015) "Social Enterprise in Japan: The Field of Health and Social Services", *ICSEM Working Papers*, No. 07.
- Nakagawa, S. & Laratta, R. (2015) "Social Enterprise in Japan: Notions, Typologies, and Institutionalization Processes through Work Integration Studies", *ICSEM Working Papers*, No. 17.

第 1 フェーズ：社会的企業に関する国際データベースの構築 (2013~2015)

第 2 フェーズ：各リージョンと世界レベルにおける社会的企業モデルの比較 (2016~2017)

各リージョンにおける社会的企業モデルの比較と世界レベルにおける総合→書籍の出版

2. 第10回香港社会的企業サミット

社会的企業民間高峰会は5月から10月までの各地区のイベントを含むロングランのプログラムを指すが、中心は9月21～27日の各種イベント（展示会、講義、企業訪問、ウォーキングツアーなど）で、そのクライマックスとしてICSEA会議は組み込まれた。

3. 第4回ICSEA会議について

「アジアにおける社会的イノベーション：創造性から社会的インパクトへ」をテーマとして、9月24～25日に香港會議展覽中心（イギリスから中国への返還式典が行われた総合会議・展覧会場）で行われ、英語・中国語の同時通訳で進行した。特徴的な点は以下の通り。

・開会式典では香港政府民生局長が参加し、組織委員会の挨拶に続いて、ビクター・ペストフ氏が「社会的企業、社会的イノベーションとコ・プロダクション」と題する基調講演を行い、またパスカル・グリートハイセン氏（UNRISD：国連社会開発研究所*）が国連の社会的・連帯経済に関する取り組みについて報告した。

*UNRISDのもとに2013年に社会的連帯経済（SSE）プログラムが設置された。その目標は①SDGの実行の手段としてのSSEの推進、②SSEの社会的経済的インパクトの測定、③環境整備を通じたSSEの拡大である。同年の国連SSE国際会議の結果設立されたSSEに関する国連組織間タスクフォース（UNTFSSSE）にはILO,FAOなどの国連専門機関が参加し、EESC, EMES, ICA, GSEF, RIPESS, MBMなどがオブザーバーとして参加している。

・分科会は5つの会場で、それぞれ2～3名のスピーカーによってプレゼンが行われた。

11:15 - 12:45	Hong Kong SE Showcase	Innovation in Community & Elderly	Eco-system in Emerging Economies	Technology X Social Innovation	New Measurement Methods
13:15 - 14:45	Innovation Business Models	Innovation in Inclusive Education	Framework for Transformation	Partnership and Network as Social Capital	Innovation in Finance
15:00 - 16:30	Social Innovation from Funder's Perspectives	Rural SEs	Creating Shared Value	Social Entrepreneurship in Education	Social Impact Assessment

・同時並行でグループ討論が行われ、それぞれ4名のパネリストが参加した。

・全体会で「アジアの社会的イノベーションモデル」についてパネル討論が行われた。

・25日の閉会式典ではアメリカとヨーロッパの「B型企業」についてのプレゼンがあった。

その後、地元の社会的企業の見学が行われた。

・初日の夕食会は高齢者雇用のレストラン（Ginkgo House）、2日目の昼食会は障害者によるレストラン（iBakery）において開催された。いずれも社会的企業として活動している。

・日本からは北島、梅田（立教）、今村（東洋大）、橋本（関西大）、牧野（大阪外大）、斉藤（阪大）、田中（学芸大）、鈴木（公益法人協会）の各氏が参加した。日本からの報告者は以下の通り。

橋本理「日本の介護保険政策の変化と市民グループの役割」

牧野松代「持続的な農村社会開発における社会的経済」

今村肇「社会的インパクト投資の促進と NPO・社会的企業の可能性」

栗本昭「日本の協同組合の高齢者介護における社会的イノベーション」

4. 感想

今回は香港の社会的企業サミットの一環として ICSEA 会議が開かれたため、学会的な要素よりもイベント的な要素が強かった。内容も民間企業の CSR や「B 型企業」など、アメリカ型の社会的起業家を中心とし、協同組合や非営利組織を中心とするヨーロッパ型の社会的企業とは異なる要素が多かった（香港では協同組合、労働組合は希少）。しかし、深刻化する高齢者問題への対応（介護保険制度、地域包括ケアなど）には大きな関心が寄せられた。

5. 第 5 回 ICSEA 会議に向けて

2018 年には第 5 回会議を日本で開催することが期待されている。その場合、以下の点を明確にする必要がある。

- ・ホストの決定
- ・日時・会場の設定
- ・学術委員会の設置（EMES との連絡、論文の募集と選考、プログラムの編成）
- ・実行委員会の設置（スポンサーの獲得、ウェブサイトの立ち上げ、会議のロジスティクスと事務局体制）